

インタビュー

フィリピンと日本
をつなぐ人

医療と手品で 笑顔をお届ける ドクターマジック



伊藤実喜さん 医師・医学博士

Dr. Miyoshi Ito

東京上野マイホームクリニック院長。STC
メディカル国際クリニック(マニラ市マラテ)
理事。デ・オカンボ医大(De Ocampo
Memorial College) 客員教授。1951年福
岡県小郡市生まれ。福岡大学医学部大学院
博士課程修了。フィリピン各地の貧困地区や
刑務所などで医療ボランティアを行うととも
にドクターマジックとして手品ショーを開催。
1993年第60回奇術世界大会(カナダ・バ
ンクーバー)優勝。所属学会：日本臨床内科
医学会、日本糖尿病学会(生活指導医)、日本
再生医療学会(厚労省再生医療第2種取得
医)、日本温泉学会(温泉療法専門医)、日
本旅行医学会(認定医)、日本性機能学会、
日本奇術協会(芸名 Dr. Magic)、NPO 日
本フィリピン夢の架け橋代表

手にはパートナーの「ジッキ君」。黒い目玉は
マグネット、磁気(じき)。中学時代に担任の
先生から本名の実喜(みよし)をジッキと呼ば
れたことに由来する。

「自分を犠牲にしても家族のことを思うほ
ど愛情深く、親日家が多いこと、LGBTQ の
人々が受け入れられ、多方面で活躍してい
ることなどにフィリピンの魅力を感じます」

レイテ島から始まった医療支援

福岡県小郡市議会議員をしていた叔父の
故伊藤賢次郎から、彼が設立した日本レイ
テ友好協会の活動を手伝うように頼まれ
たのがフィリピンに関わるきっかけです。
1996～97年頃ですね。叔父の後援会長は
レイテ島で終戦を迎えた人でした。その人
の話を聞いた叔父が政治家として自分も実
情を知っておくべきと、レイテ島ビリヤバ町
の町長を表敬訪問したところ、その方は戦
時中に親日派ゲリラのトップだった人の息
子だった。戦争で大変な思いをしたにもか
かわらず、日本軍が道路や井戸などを整備
してくれたという理由から、その町にはフィ
リピン人と日本兵の戦死者の合同慰霊碑が
ありました。そして、水がなくて困ってい
ると聞いた叔父は、日本政府からの資金援助
を得て井戸から水をすくい上げる簡易水道
をつくったんです。また住民が肉体労働で
体の痛みを苦しんでいると久光製薬に伝え
たところ、同社の会長もレイテ島で終戦を
迎えた方で、共感いただいて大量のサロン
バスを提供してもらったこともあります。

そのような支援活動をしていた叔父から
医師である私に要請があり、定期的にレイ
テ島を訪れて無医村地区医療ボランティア
を始めました。盛大なパレードで大歓迎を
受け、感激しました。しかし、2001年9

月11日に起きた米国での同時多発テロ後、
ミンダナオ地方でイスラム過激派によるテ
ロが活発化し、レイテ島でも叔父が誘拐さ
れそうになるなど治安が悪化。私もボラン
ティアを続けるのは危険だと言われ、マニ
ラに活動拠点を移すことにしました。

バランガイから住民を診察してほしいと
いう要望が寄せられ、口コミで広まってい
きました。最近5年でもルソン地方サンバ
レス州オロンガポ、パンパンガ州アンヘレス、
首都圏マニラ市トンド、首都圏ケソン市バ
ヤタス、ブラカン州メカワヤンやマロロス、ビ
サヤ地方セブ市、ミンダナオ地方ダバオ市
など広域に渡り、1カ所で約200人を診察し
ます。今年も2月にオロンガポ、7月にリサ
ール州アンティポロで診察を行いました。内
科医の私のほかに歯科医も同行し、必要に
応じて抜歯もします。バランガイの認可を
得ているのでその場で治療、薬の処方もで
きるのが、私たちの活動の強みです。

活動中、いろいろな人に出会います。セブの
マンダウエ刑務所では、受刑者から脚を診
てほしいと言われて診ると、逮捕時に警察
官に銃で撃たれた傷口が放っておかれ、化
膿していました。しかし、勝手に治療す
ることはできないというので、所長に説明
し、許可を得て治療したことがあります。

レイテ島では、ヘビに咬まれて腕が腫れ
あがっている人がやってきました。止血しま



7月20日、リサール州アンティポロ市バ
ランガイ・サンロケでの医療ボランティア。
内科と歯科合わせて約300人の住民が診
療を受けた。「糖尿病と高血圧、ひどい通風
結節の男性がおられ、食生活の改善を指導
しました」(写真提供：日本国際医療奉仕会)